

令和7年度自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程									
中長期目標		1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的且つ明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。			今年度の重点目標		1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進		
					評 価 結 果 ()月				
評価項目	評価の具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策		
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○わかる授業を推進 1 2月授業評価アンケートの結果、最上位項目が 「わかりやすい」 6 5 % 「先生の熱意を感じる」 7 0 % 「授業の自己評価で4以上」 7 3 % 「ICTを効果的に活用」 5 1 % ○授業公開を継続的に実施した。 ○ルーブリックを活用した評価を実施した。 ○Chromebook環境整備、授業で使う機会が増加した。	○わかる授業を推進 授業評価アンケートの最上位項目が 「わかりやすい」 7 0 %以上 「先生の熱意を感じる」 7 0 %以上 ○授業の自己評価で4以上7 0 %以上 ○ICTを効果的に活用 6 0 %以上	○授業アンケートから生徒の意見や課題を把握し、授業改善につなげる。 ○公開授業では観察の視点を明確にして実施する。 ○授業に積極的に参加する生徒を増やしていく。 ルーブリックにより、生徒の主体的な学習活動を適正に評価する。 ○Chromebook活用に努める。					
	特別支援教育の充実	○生徒情報交換会、ハイパーQ U研修会または日々の夕礼、終礼で、生徒情報の共有を行い、支援に役立てた。 ○S S Wの月2回の定期訪問に合わせて、S Cと支援部、担任でのケース会議を行い、関係機関とも連携して生徒支援にあたった。 ○米東サポーター・特別支援教育支援員がきめ細やかな支援記録をし、それを教職員に還元して指導に役立てている。	○S C、S S Wとの連携 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員・米東サポーターの有効活用	○教職員の特別支援教育に対する意識の向上に向けて、効果的な研修会を行う。 ○関係機関との連携を学校が主体的に行う。 ○職員間の情報共有は、必要に応じて、夕礼・終礼で共通理解を図る。					
	進路指導の充実	○就職希望者7名中6名、進学希望者1名中1名がそれぞれ内定、合格した。 ○企業学校見学、進路講演会で進路情報を生徒に伝えた。 ○C Aによる進路面談回数は延べ3 9回、L H Rにおける指導回数は延べ8回であった。 ○ハローワークとの連携では、就職希望者2名が就職相談・志望理由作成指導を受けた。 ○進学希望者向け業者テストを延べ3名が受験した。	○進路相談を充実させて本人の希望に沿った進路実現 ○C A、ハローワークと連携 ○進学希望者向けの進路指導の充実	○見学、講演会を有効に活用して、生徒に進路情報を伝えていく。また、保護者への進路情報の確認も行う。 ○応募書類の作成および提出締切に苦慮する生徒には、進路指導担当、学年団で連携して指導する。 ○基礎学力の養成が課題である。教科と連携して個別指導等を行い、進学希望者の生徒を支える。					
	キャリア教育の充実	○各種講演会において生徒の感想や学びの足跡を記録させ、キャリアパスポートの内容を充実させた。 ○生徒が書いた感想等に対して、担任ならびに進路指導担当で小まめにコメントのフィードバックを行い、生徒の成長に繋げることができた。 ○振り返りを記入する習慣が身についた。	○キャリア・パスポートの有効活用 ○キャリア意識の醸成	○同様の形でキャリアパスポートを作成させ、生徒自身の自己把握や自己変革を促していく。 ○担任ならびに進路指導担当で小まめにコメントしていく。 ○記述量が増えている生徒については、内容も深まるように指導する。					
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○定期的に執行部会を開き、学校行事の企画を行った。 ○生徒会執行部の生徒が中心に球技大会の企画・運営を行った。全校生徒が学年の枠を超えた交流を楽しんだ。参加する生徒の姿勢も素晴らしかった。 ○県総体や県生連大会に向けて、部活動週間を設定した。 ○バレーボール男子団体と卓球女子個人が全国大会出場を果たし、バレーボールが全国大会で1勝をあげた。 ○学校H Pの更新回数は昨年度より増加した。	○生徒会活動や部活動、学校行事での生徒の主体的な取組の推進 ○部活動の推進	○生徒会執行部、部活動において、生徒の主体的な活動を進めてリーダーの育成に繋げる。 ○生徒会行事に参加する生徒の姿勢も継続して指導する。 ○生徒会行事、部活動について、生徒会担当はH P用の記事を準備し遅れないように更新する。					
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○演劇鑑賞を実施した。芸術への興味・関心を持たせることができた。 ○7月にカヌー体験（1、2年次生）乗馬体験（3年次生）を実施し、自然の中で貴重な体験をした。 ○地元資源体験ではビザ体験後、大山自然歴史館を訪ねて大山の自然と歴史に触れることができた。	○体験的な活動による豊かな心の育成 ○地域に根ざした教育活動	○地元の自然の中での体験活動や地元の観光資源に訪問する行事を計画して、生徒に地元の魅力を伝える。 ○芸術鑑賞に取り組む。 ○体験、行事を通して、級友や地域の大人との関わりを大切にできるように進めていく。					
	人権感覚豊かな生徒の育成	○年に2回人権講演会を実施した。 ○L H Rの話し合い活動を通して、他者の考えに触れる機会を持つことができた。	○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○人権アンケートで生徒の実情を把握し、人権講演会およびL H Rを計画する。 ○教員向けの研修の参加をすすめる。 ○人権教育L H Rでの話し合い活動の時間を設定する。					
	社会参画できる生徒の育成	○子どもに対する苦手意識を持っている生徒が多かったが、保育実習に非常に前向きに取り組み自信を深めることができた。 ○講演会を聞く姿勢は概ねよかった。講演後の感想文は教職員で共有して指導に活かした。	○異なる世代と交流することによって他者を思いやる心を育てるとともに自己肯定感を高める ○人の話をきちんと聞いて、自分の意見を考えることができる生徒の育成	○1年次生全員と2、3年次生の選択者を対象に保育実習を継続する。 ○行事、講演会等で外部の人と関わる機会を設定する。 ○事後の感想文を教職員で共有して指導に役立てる。					
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○気持ちの良い挨拶ができる生徒が増加。 ○問題行動は1件あった。言葉の認識の相違からトラブルになるケースがあった。 ○1年間の皆勤及び精勤は5名である。長期休業明けから、生活リズムを崩す生徒が見受けられた。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○1年間皆勤及び精勤5名以上	○挨拶指導、生徒への声かけを継続する。 ○終業式、始業式など節目のタイミングで、あらためて社会性について問題提起する。 ○長期休業前後の集会において生活サイクルの見直しを図るよう指導する。長期休業明けに身だしなみ確認を実施する。					
	家庭との連絡の緊密化	○欠席の多い生徒の割合は減少したが、一部の生徒の欠席が多い。教職員での情報共有、保護者連絡は適宜行った。 ○S Cとの全員面談を実施。継続面談のほかに気になる生徒にカウンセリングを勧めている。不登校生徒の保護者にもカウンセリングを勧め実施した。 ○S Cとのコンサルテーションを実施している。 ○学校行事についてH Pに掲載した。	○欠席の多い生徒を減少させる ○保護者の学校理解を促進	○教職員、保護者と連携し欠席の多い生徒の指導に充たす。 ○気になる生徒にはカウンセリングを勧めるとともに、必要なら保護者にも勧める。 ○学校行事について、行事担当はH P用の記事を準備し遅れないように更新する。					
	〔体〕育、〔食〕育の推進	○生活習慣アンケートから朝食の摂食率は約85%、睡眠が十分と回答したのは約45%だった。 ○食の講演会ではアンケート結果や生徒の質問を取り上げ話をしてもらった。生徒は食の大切さを再認識できた。 ○生活習慣についてH Rで指導した。	○生徒の健康に対する意識の向上 毎日朝食を食べる 5 0 %以上 睡眠が十分である 6 0 %以上	○生活習慣アンケートを実施して、結果をもとに食事、睡眠を中心に生活習慣について継続して指導を行う。 ○行動の改善や正しい知識の定着のために、保健部と学年団が連携し、継続して指導していく。 ○学校行事等で楽しく食事をとる機会を設定する。					
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの持ち帰りは概ね出来ている。 ○H Rの時間に生徒と教員で清掃活動の時間を設定した。清掃活動は全員が真面目に取り組むことができた。	○校内環境の整備 ○H Rの時間に生徒と教員で清掃活動	○日常でのゴミ拾いや片付けをする意識づけをする。 ○ゴミの持ち帰りを引き続き徹底する。 ○今後も清掃活動の時間を設定し清掃活動を継続する。					
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○学事支援システムを日々の出欠管理や成績処理に活用している。 ○分掌を主任1名、副査3名体制で進めた。主任に仕事が集中することを解消していきたい。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の削減	○学事システムでは授業担当、クラス担任が「日々入力」を確実に行う。 ○分掌の打合せを定期的に行い、分掌内の連携を図る。					
					評価基準 A：十分達成 〔100%〕	B：概ね達成 〔80%程度〕	C：変化の兆し 〔60%程度〕	D：まだ不十分 〔40%程度〕	E：目標・方策の見直し 〔30%以下〕